

テーマ → 将来への備え

「超高齢社会が進む日本。揺らぐ社会保障制度に備えるには？」



佐々木 元司

Motoshi Sasaki
エグゼクティブ ライフプランナー
部長

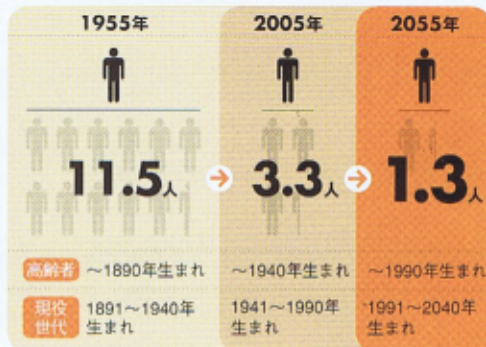
名古屋ライフプランナーセンター第9支社
〒461-0005 名古屋市東区東桜1-1-10
アーバンネット名古屋ビル17F

Tel **052-955-7779**
Fax 052-955-7789
e-mail motoshi_sasaki@sonylife.co.jp
office@fpsasaki.jp

1級ファイナンシャル・プランニング技能士
C F P
MDRT2007成績資格終身会員

高齢者1人に対し現役世代は何人？

(65歳以上の人口に対する15~64歳の人口の割合)



2 006年12月、国立社会保障・人口問題研究所が発表した2055年までの日本の将来推計人口は、各方面に衝撃を与えました。

そこで予測される2055年の日本は、少子化が進み、女性が生涯に産む子どもの数は1.26人。人口は減り続け、総人口は2046年に1億人を割り2055年には8993万人。平均寿命が伸び、さらに高齢化が進む結果、65歳以上が全人口の40.5%になるといわれています。

超少子高齢化社会が、予想以上のスピードで進行する日本。その影響は暮らしのさまざまな面に表れます。

まず、人口の4割が高齢者となる社会では、世代間の支え合いで成り立つ年金などの社会保障制度が大きく揺らぐのは必至。「現役世代収入の5割」を約束している厚生年金ですが、推計値が現実と

佐々木 元司

ライフプランナー通信

我が家の娘たち(小1、小3)の通っている小学校は児童数が少なく、どちらの学年も2クラスです。娘たちはとても穏やかに過ごしているようで、感謝です。その小学校で、今年度のPTA会長をさせて頂いています。ほとんどの作業はお母さん達がやってくれるので、なんだか「お御輿」に乗っかっているような気分です。でも、小学生のいるご家庭のためだけの活動でなく「地域のお年寄り」や「若い方」との交流が盛んになるような活動ができればいいな(^_^) などなど、いろいろ考えてます。
[www.fpsasaki.jp] [フリーダイヤル 0120-509-720]

なったときには、影響がでる可能性があります。

また、高齢化が進むにつれて、医療や介護にかかる費用が増大することから、健康保険制度や公的介護保険制度の給付と負担が見直されることも予想されます。

今回の発表はあくまで推計値ですが、今後、私たちを取り巻く環境が厳しくなることは間違いありません。今までの以上に老後の生活や医療、介護などのリスクへの対策を自身で行うことが重要になるでしょう。

リスクマネジメントについて、どうすればいいの? と迷うことがあります。お気軽に私にご相談ください。